



全国高校総体サッカー記録用紙

限界を越え 飛び続ける 永遠の記録

マッチインスペクター	主 審
------------	-----

大会名	平成20年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技	第2日 2回戦	平成20年7月30日(水)	10:00	競技時間(延)	70分	観衆	2000人				
会場	駒場運動公園競技場	【 34 】	天候	晴	微風	ピッチ 全面良芝	状態	乾燥	温度	30°C	湿度	58%
審判	主 審 山内 宏志	副 審 柴田 正利	副 審 森川 浩次	第4の審判 穂山 健太	記 録			中山 伊智郎				

校名	都道府県	3	前半	0	校名	都道府県	
埼玉栄	埼玉県	6	3	後半	0	東邦	愛知県
			延前				
			延後				
Kick off							

No	PK方式	No
○×		○×

交代 番号	時間	シュート				得点	学年	選手名	番号	位置	位置	番号	選手名	学年	得点	シュート				交代 時間	番号		
		後半	前半	前半	後半											延前	延後						
						3	井上 進一	1	GK	GK	1	桑山 大助	2										
						3	藤井 琢也(Cap)	2	DF	DF	2	大津 漱太	2										
54						3	高本 大資	15	DF	DF	3	木村 剛大	2									46	
54						3	岩城 裕規	4	DF	DF	5	野田 健太	3										
						3	渡辺 恭平	6	DF	DF	7	飯田 旭	3										
			1		1	2	新井 悟	5	MF	MF	16	高島 隆之	2									68	
			2	1	2	3	戸井田 怜鷹社	7	MF	MF	6	鶴川 尚(Cap)	3	1									
50						3	神部 智之	8	MF	MF	8	渡辺 元規	3										
57			1	1	2	2	ゴンサレス 高彦	9	MF	MF	9	神野 史也	3									67	
			2	1	1	2	高瀬 優孝	3	MF	FW	4	伊藤 勇人	3									HT	
			2	2	1	3	佐瀬 裕大	10	FW	FW	10	金 弘淵	3	1	4								
15			1		1	1	畠山 将	12	GK	GK	12	中津隈 史樹	2										
8			1		3	3	鈴木 俊	11	MF	DF	14	中村 智哉	3									9	
					3	3	伊藤 駿	13	MF	FW	13	小嶋 直人	3									16	
					2	2	渡部 大樹	14	DF	FW	11	播 勇輔	2		1							4	
9			1		3	3	小原 裕哉	16	FW	FW	15	田中 宏昇	2		1							3	
4					2	2	梅澤 駿	17	MF	DF	17	富田 恭輔	1										
		11		5		小計		16		シュート合計				8		小計		2		6			

警退	時間	No	氏名	内容	計	延長	後半	前半	前半	後半	延長	計	警退	時間	No	氏名	内容
警	23	6	渡辺 恭平	反スポ	10		5	5	G K	5	2	7	警	44	5	野田 健太	反スポ
					3		2	1	C K	1	0	1	警	69	8	渡辺 元規	反スポ
					16	15	10	5	直接FK	5	4	9					
					1		0	1	間接FK	3	3	6					
					0		0	0	P K	0	0	0					

得点経過 (凡例: ~ドリブル、→ゴロのパス、↑浮球のパス、×混戦、Sシュート、Hヘディング)

時間	得点者	アシスト	得点経過	時間	得点者	アシスト	得点経過
6	3	高瀬 優孝	5 新井 悟 中央⑩→中央⑤→左③~S				
7	7	戸井田 怜鷹社	8 神部 智之 中央⑧↑右⑦S				
34	10	佐瀬 裕大	7 戸井田 怜鷹社 中央⑦~→中央⑩~S				
47	5	新井 悟	3 高瀬 優孝 左③→中央⑩→左③→中央⑤S				
61	7	戸井田 怜鷹社	16 小原 裕哉 右⑪↑中央⑩HSホスト中央⑦S				
67	11	鈴木 俊	17 梅澤 駿 中央②ロング↑中央⑩→中央⑩S				

【戦評】

記者者: 栗原 正実 (東北学院榴ヶ岡 高等学校)

お互いキビキビとして激しい動きで、この試合に臨む意気込みを感じられる立ち上がりとなる。東邦は4-4-2のシステムで中盤をコンパクトにし、粘り強いDFからサイド攻撃を仕掛ける。一方、埼玉栄は、4-5-1のシステムでワイドにポジションを置いて、⑩のポストプレーからMFの③や⑦がDFの裏へ飛び出し、早い時間帯に確実にチャンスをものにした。後半に入りフリーランニングやサポートの質など上回る埼玉栄はポゼッションから幾度となくシュートに持ち込んだ。その後も、東邦の付け入る隙を与えず圧勝した。